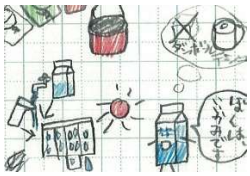
一般社団法人　廃棄物資源循環学会　東海･北陸支部

支部の歩み

2000年度～2019年度



2020 年 3 月

はじめに

本学会は 1990 年 3 月に「廃棄物学会」として創立されました。第 9 回研究発表会（1998 年、名古際会議場）の開催を機に、2000 年 1 月から東海・北陸地区連絡会が活動を開始しました。東海・北陸支部はその 3 年後 2003 年 2 月に設立されました。私は地区連絡会と支部の草創期にあたる計 6 年間を連絡会代表及び初代支部長を務めました。その間、事務局は名古屋大学難処理人工物研究センター内に置きました。

本支部は当初から地域の会員と市民に開かれた支部活動を目指して、定期の幹事会、常議員会、総会のほか、市民フォーラム、見学会、講演会、講習会、教育活動、等を行ってきました。とくに、鈴木憲司支部長の時期に実施された若い世代を対象とする「環境教育」への取り組みは、子どもたちの環境行動を促す出前授業や、廃棄物処理の歴史をわかりやすく説明したパンフレット「未来への架け橋」の作成等のユニークな活動として注目されます。

その後、本学会は 2008 年 12 月に「一般社団法人廃棄物資源循環学会」に名称変更し、廃棄物処理のみならず、資源循環型社会の構築という社会的ミッションを掲げるようになりました。東海・北陸支部でも 3R 活動と資源循環に関する活動を進めるとともに、2009 年には第 20 回研究発表会（名古屋大学）の開催に協力しました。2010 年以降は、市野良一前支部長のもとに、東日本大震災における災害廃棄物処理の調査活動や、復興事業に携わった会員からの報告会・シンポジウムを開催し、2016 年度には復興現場の視察活動も実施しました。

このたび本支部では、過去 16 年ほどの諸活動を記録にとどめ、将来の支部活動の活性化に資することを目的として、支部活動「歩み」制作委員会を設置しました。そのために過去の膨大な資料を整理して、「支部の歩み」にそのエッセンスを掲載することになりました。主として年次活動報告を年表形式で示すとともに、当時の簡単な社会情勢や各行事の写真等も収録しました。本小冊子を多方面で活用し、支部の歴史を知っていただくと同時に、創意ある魅力的な支部活動の継続を願います。

東海・北陸支部へのいっそうのご支援・ご鞭撻をお願いする次第です。

2018 年 3 月

東海・北陸支部　支部長
伊藤 秀章

増補版の刊行にあたって

このたび、「東海・北陸支部の歩み（2000 年度～2016 年度）」の発行以後の 3 年間の支部活動を追加して、増補版（2000 年度～2019 年度）を制作することとしました。併せて、本支部の特色ある活動のひとつである「環境教育」に関わる内容を別冊としてまとめ、今後の環境教育に活用したいという要望に応えて、全体の構成や内容を変更しました。

この 3 年間に新たに加わった事業としては、第 29 回研究発表会（名古屋）の開催や災害時における子どもたちの夏休みスペシャル減災教室への参画などがあげられます。そのなかで、東海・北陸地域の「ものづくり」、「ひとづくり」や「まちづくり」に貢献する持続可能な資源循環や廃棄物処理のあり方を模索する活動につなげることができればと願っています。

前回と同様に「支部の歩み」の編集作業に携わった制作委員会の皆様に厚くお礼申しあげます。引き続き本支部の諸活動へのご協力・ご支援をお願いいたします。

2020 年 3 月

東海・北陸支部　支部長
伊藤 秀章

目　次

沿革 4
支部活動の考え方 5
支部の設立趣意書および内規 6

1.　年次活動報告 8

平成 12 年度／2000 年度（2000 年 1 月地区連絡会の設立含む） 8
平成 13 年度／2001 年度 9
平成 14 年度／2002 年度 10
平成 15 年度／2003 年度 12
平成 16 年度／2004 年度 14
平成 17 年度／2005 年度 16
平成 18 年度／2006 年度 19
平成 19 年度／2007 年度 21
平成 20 年度／2008 年度 23
平成 21 年度／2009 年度 24
平成 22 年度／2010 年度 27
平成 23 年度／2011 年度 29
平成 24 年度／2012 年度 31
平成 25 年度／2013 年度 33
平成 26 年度／2014 年度 34
平成 27 年度／2015 年度 35
平成 28 年度／2016 年度 37
平成 29 年度／2017 年度 40
平成 30 年度／2018 年度 42
平成 31 年度（令和元年度）／2019 年度 44

2.　環境教育 45

(1)　概要・活動一覧 47
(2)　小中高生への環境教育 49
(3)　「廃棄物処理の歴史」とりまとめ 53
(4)　小中学生を対象とした災害廃棄物に関する減災啓発教材の開発 55

編集後記 59

沿革

廃棄物学会は 1990 年 3 月に設立され､1998 年に名古屋で開催された研究発表会を機に、辻　喜礦氏（当時、廃棄物学会理事）や名古屋大学難処理人工物研究センターの松田仁樹氏、服部　忠氏らの尽力により、東海・支部設立への準備活動がはじまり、2000 年 1 月に東海・北陸地区連絡会が発足した。その後、2003 年 2 月に東海・北陸支部が設立され、本格的な支部活動を行ってきた。地区連絡会での活動期間も含めると現在までにちょうど 17 年の活動期間を経過したことになる。

廃棄物資源循環学会では、毎年全国規模で研究発表会を実施しており、開催場所は本部や支部のある地域の持ち回りとなっている。東海・北陸地域では、これまで第 9 回（1998 年：名古屋国際会議場）と第 20 回（2009 年：名古屋大学）の 2 回にわたり開催された。なお、第 30 回（2018 年）は名古屋大学で開催される。

表　東海・北陸支部の沿革

1990 年　3 月	廃棄物学会が設立された。
1998 年　10 月	廃棄物学会第 9 回研究発表会が名古屋国際会議場にて開催された。
2000 年　1 月	廃棄物学会　東海・北陸地区連絡会として準備活動を開始した。
2003 年　2 月	廃棄物学会　東海・北陸支部として設立された。
2008 年　12 月	公益法人制度の施行に伴い「一般社団法人廃棄物資源循環学会」が成立し、従来の「廃棄物学会」から発展的に移行した。
2009 年　9 月	廃棄物資源循環学会第 20 回研究発表会が名古屋大学にて開催された。

2000 年 1 月に設立された東海・北陸地区連絡会（2000 年 1 月～2003 年 2 月）における代表と事務局を以下に示す。

表　地区連絡会での代表・事務局

東海・北陸地区連絡会			
年　度	代　表	―	事務局
2000(H12)～2002(H14)	伊藤　秀章	―	名古屋大学難処理人工物研究センター内

また、東海・北陸支部（2003 年 3 月～2020 年 3 月）における、支部長・副支部長・事務局の変遷を次表に示す。

表　支部での支部長・副支部長・事務局の変遷

東海・北陸支部				
期	年　度	支部長	副支部長	事務局
Ⅰ	2003 (H15)～2005 (H17)	伊藤　秀章	辻　喜礦	名古屋大学難処理人工物研究センター内
Ⅱ	2006 (H18)～2007 (H19)	鈴木　憲司	戸谷　満	名古屋大学エコトピア科学研究所内
Ⅲ	2008 (H20)～2009 (H21)	鈴木　憲司	戸谷　満	名古屋大学エコトピア科学研究所内
Ⅳ	2010 (H22)～2011 (H23)	市野　良一	戸谷　満	名古屋大学エコトピア科学研究所内
Ⅴ	2012 (H24)～2013 (H25)	市野　良一	戸谷　満	名古屋大学エコトピア科学研究所内
Ⅵ	2014 (H26)～2015 (H27)	市野　良一	戸谷　満	名古屋大学エコトピア科学研究所内
Ⅶ	2016 (H28)～2017 (H29)	伊藤　秀章	戸谷　満	（株）フジタ名古屋支店内
Ⅷ	2018 (H30)～2019 (H31)	伊藤　秀章	戸谷　満	（株）フジタ名古屋支店内

支部活動の考え方

東海・北陸支部は、廃棄物学に基づく情報交換や学術研究を柱として、市民フォーラム、見学会などを展開してきている。さらに、多くの地域の方々へ支部活動を展開していくためには、地域活動に参加することが重要と考えた。

下図は、東海・北陸支部の活動範囲を概念図で示している。従来型の「情報交換や学術研究（Y 軸：ハード）」に、「地域活動（X 軸：ソフト）」の領域を加え、幅広い活動を展開していることを示している。

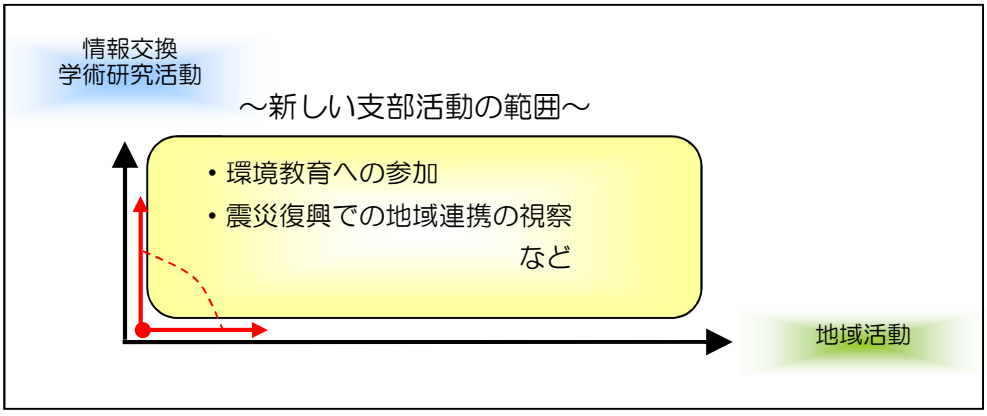


図　東海・北陸支部の活動範囲（概念図）

支部の設立趣意書および内規

以下に、東海・北陸支部の設立趣意書および支部内規（2020 年 3 月現在）を示す。

廃棄物学会東海・北陸支部

設 立 趣 意 書

廃棄物学会は、「廃棄物に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより、廃棄物学の進歩普及を図る」（会則第 4 条）ことを目的として、平成 2 年に創立されました。循環型社会の構築に対する社会的要請が増大するなかで、本学会は廃棄物の適正な処理と管理を推進するために、廃棄物問題に真正面から取り組んでいる学術団体であると言うことができます。設立後十数年を経過した今日、本学会の会員数は 4,000 名近くに達し、全国的な学術研究発表・講演会・出版活動などが活発におこなわれています。

一方、会員の身近な地域においては、都市ごみの減量化、焼却処理の方法、埋立処分場の安全に関する問題、あるいは産業廃棄物の無害化、再資源化、有効利用、最終処分場確保の問題が顕在化するようになりました。これらの諸問題に対する市民・地域住民の意識や要求も増大し、国はもちろん自治体や産業界としても早急な対策を迫られています。このような情勢のなかで、平成 12 年 1 月に東海・北陸地区連絡会が創立されました。約 350 名の会員を抱える連絡会の運営は、代表幹事を中心として、常任幹事会、幹事会によって支えられ、これまでに各種のシンポジウム、市民フォーラム、講演会などの開催、連絡会会報の発行などの諸事業をおこなってきました。しかし、廃棄物に関する諸問題が山積するなかで、本連絡会の活動基盤は、財政的にも組織的にも不十分でありました。

全国的には北海道、関西、中国・四国、九州の各地区でボランティア的な地域活動が始められ、それぞれの場所で独自の行事が開催されています。そして、廃棄物学会のなかに正式な支部組織を発足させて、学会もその活動を支援し相互の連携を強化するための体制が整えられてきました。このような機会に、「東海・北陸地区連絡会」を「東海・北陸支部」と改称し、組織的にも運営面でも、名実ともに学会支部としての活動を再構築することはまことに時宜を得たものと考えます。

東海・北陸地区は、機械、金属、化学、電子産業が大規模に活動している全国でも有数な「ものづくり」の地域であります。また、農林・水産業も活発におこなわれています。このような地域において、産業廃棄物や生物系廃棄物を資源循環させて、生産活動や自然環境に返していくための「ネットワークづくり」の重要性が増大しています。行政側においても廃棄物の適正な処理と資源循環を目指して、世界に誇れる「環境都市」を創成しようとする動きも活発になりつつあります。このようななかで、従来の専門分野の枠組みを越えて廃棄物に関する学術を進歩発展させることが必須であるとともに、現実の切迫した諸問題に対して大胆に提言するためには、産業界、行政、市民を交えた情報交換と合意形成の努力を惜しまないことが重要であります。

廃棄物学会東海・北陸支部は、このような地域に根ざした問題を解決するために、情報交換と学際的学術研究活動を通して長期的な展望のもとに廃棄物学に基づいた研究、教育、啓発、提言活動を積極的に展開することを志します。

平成 15 年 2 月 22 日

廃棄物学会東海・北陸支部設立総会
参加者一同

一般社団法人 廃棄物資源循環学会東海・北陸支部内規

平成 21 年 3 月 14 日制定

（名　称）

第1条　当支部は廃棄物資源循環学会東海・北陸支部と称する。

（範　囲）

第2条　当支部は次の地区に勤務または居住する廃棄物資源循環学会会員をもって構成する。

新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県

（目　的）

第3条　当支部は一般社団法人廃棄物学会定款第 4 条の目的を達成するために、同支部規程に準拠し、同規程第 4 条の各種事業を行う。

（役　員）

第4条　当支部に次の役員を置く。支部長 1 名、副支部長 1 名、幹事若干名、常議員若干名、監査 1 名、顧問若干名。役員の任期は 2 年とし、再任をさまたげない。

第5条　常議員は支部の正会員の互選により決める。支部長及び副支部長は常議員会において支部会員の中から互選により決める。幹事は常議員の中から支部長が指名する。監査は、会員の中から支部長が指名する。

第6条　支部長は、支部を代表するとともに、会務を統括し、総会、常議員会、幹事会を召集する。副支部長は支部長の任務を補佐し、支部長がその任務を全うできない場合には代行する。

第7条　幹事は支部長を補佐し、会務を処理し、常議員会での評議事項を提案する。

第8条　常議員は総会への提案事項、その他重要な会務について評議決定する。

第9条　顧問は常議員会に出席して意見を述べることができる。

（総　会）

第10条　支部長は毎年 1 回定期総会を召集し、前年度事業報告、決算報告ならびに新年度事業計画、予算案、その他重要議案を審議し、承認を受けなければならない。また、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

第11条　総会は委任状を含めて、支部正会員数の 5 分の 1 以上の出席により成立する。総会の議長は支部長がおこない、議事は出席正会員の過半数により決し、可否同数のときは議長が決める。

（財　務）

第12条　支部事業に要する経費は、学会交付金及び支部事業に伴う収入をもって支弁する。監査は年度末に収支決算を監査する。

第13条　支部の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

（変　更）

第14条　本内規を変更するためには、総会において出席正会員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

付　則　本内規は平成 21 年 3 月 14 日から施行する。

1.　年次活動報告

以後、各年次の主要な活動を記載する。ここでの記載は、保管されていた資料を基に示したものである。よって、本記載が全てではなく一部で記録が不明確なために記載しきれなかった部分もある。

平成 12 年度／2000 年度（2000 年 1 月地区連絡会の設立含む）

【社会情勢】

・循環型社会形成を目指した 3R の推進や産業廃棄物処理対策の強化を目的とした「循環型社会形成推進基本法」や「食品リサイクル法」の制定、「廃棄物処理法」の改正が実施された。

・シドニー五輪で日本は金 5・銀 8・銅 5 のメダルを獲得、女子マラソンで高橋尚子選手が大会新記録で金メダルを獲得し国民栄誉賞を受賞。

・大阪にユニバーサル・スタジオ・ジャパンがオープン。

・アメリカでジョージ・ブッシュ大統領が就任。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
2000 年 1 月 20 日	難処理人工物研究センター主催のオープンシンポジウムにて、東海・北陸地区連絡会を結成	名古屋大学
	第 1 回　発足幹事会（参加者 26 名）	
2000 年 8 月 25 日	第 1 回（常任）幹事会	愛知県産業貿易館
2001 年 3 月 27 日	第 2 回　幹事会	名古屋大学工学部 7 号館

【東海・北陸地区連絡会の結成準備】

平成 10 年度に案小屋で開催された廃棄物学会研究発表会のおり、東海・北陸地区においても連絡会を設立しようとの声が高まってきた。その後、服部忠氏（名古屋大学）と辻喜礦氏（中日本建設コンサルタント（株））のご尽力により準備が進められた。

【第 1 回　発足幹事会】

第 1 回の発足幹事会（参加者 26 名）が開催され、世話役の伊藤秀章氏（名古屋大学）から東海・北陸地区連絡会設立に至るまでの経緯が説明された。本連絡会役員として、代表幹事（兼）事務局の伊藤秀章氏および常任幹事（15 名）、幹事（18 名）が選出された。

平成 13 年度／2001 年度

【社会情勢】

・PCB 廃棄物の処理体制を早期に構築し、確実かつ適正な処理の推進を目的とした「PCB 特別措置法」が制定される。

・小泉純一郎 首相内閣が始まる。

・東京ディズニーシーがオープン。

・アメリカ同時多発テロ事件（9.11 テロ事件）が発生し、3000 人以上が犠牲者となった。

・ユーロ圏 12 ヶ国で欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 21 日	市民フォーラム	名古屋国際会議場
	第 1 回幹事会	

【市民フォーラム：6/21 名古屋国際会議場にて】

メインテーマ『都市ごみ減量化をめぐる』

都市ごみの減量化が各自治体において進む中で、その政策の現状と市民生活に及ぼす影響、さらに現在のごみ処理管理技術が抱える問題を明らかにし、今日の都市ごみ処理の課題について討論する。

（講演１） 循環型社会と都市ごみ減量化 廃棄物学会会長　田中　勝氏	（講演４） 名古屋大学における一般ごみ減量化戦略 名古屋大学工学研究科　原口　紘炁氏
（講演２） 名古屋市のごみ減量化の取組み 名古屋市環境局　神下　豊氏	（講演５） 都市ごみ処理におけるリサイクル技術の現状 名古屋市環境局　松葉　基司氏
（講演３） 都市ごみと市民生活 中部リサイクル運動市民の会　萩原　善之氏	（講演６） 廃棄物の最終処分と最終処分場 土橋技術士事務所　土橋　弘氏
（パネル討論） コーディネーター：中日本建設コンサルタント㈱　　辻　喜礦氏	

写真　廃棄物学会 田中勝会長の基調講演

都市ごみ減量化へ
名古屋の事例紹介

『埋め立て依存』脱却

熱田で市民フォーラム

一都市ごみの減量化をめぐる市民フォーラム」（廃棄物学会東海・北陸地区連絡会主催）が二十一日、熱田区の名古屋国際会議場で開かれ、市民や企業関係者、廃棄物学会の会員ら約百人が参加した。

市環境局や中部リサイクル運動市民の会（東区徳川）などから六人を招き、それぞれが「名古屋市のごみ減量化の取組み」や「都市ごみと市民生活」などのテーマで講演。

ごみの減量化が進む中で、抱えている問題点を見据、リサイクルや廃棄物処分の技術について話した。具体的には、市民による分別の徹底、埋め立てに依存しない廃棄物処理システムの確立などを挙げた。

講演の後はパネルディスカッションがあり、講演者のうちの四人が意見交換し、会場からの質問にも答えた。

同学会がごみ減量化のためのフォーラムを開くのは初めて。名古屋大学大学院人工物研究センターの伊藤秀章教授（55）は、「一回だけで終わらせることなく、粘り強くフォーラムを続けていきたい」と話した。

図　中日新聞 2001.6.22

平成 14 年度／2002 年度

【社会情勢】

・自動車製造業者を中心とした関係者に適切な役割分担を義務付けることにより、使用済自動車のリサイクル・適正処理を目的とした「自動車リサイクル法」が制定される。日本・韓国共同開催のサッカーW杯で日本はベスト 16、韓国はベスト 4 の成績、優勝国はブラジル。

・島津製作所・田中耕一所員がノーベル化学賞、東京大学・小柴昌俊名誉教授がノーベル物理学賞を受賞。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
4 月 24 日	第 1 回幹事会（参加者 14 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
9 月 26 日	第 1 回常議員会（参加者 16 名）	名古屋大学工学部 7 号館
11 月 7 日	第 2 回幹事会	名古屋大学工学部 7 号館
1 月 29 日	第 3 回幹事会（参加者 14 名）	名古屋大学工学部 7 号館
2 月 22 日	設立総会（参加者 26 名）	名古屋国際会議場
	市民フォーラム（参加者 66 名）	
	第 1 回常議員会（参加者 25 名） 2003 年度常議員会、前倒し開催	

【市民フォーラム：2/22 名古屋国際会議場にて】

メインテーマ『生ごみ減量化に挑む』

行政、NPO、大学、企業の立場から生ごみの資源化、生ごみリサイクルの取り組み事例、生ごみのリサイクル技術、エコ資源としてのバイオマス系廃棄物の可能性についてパネル討論会を行う。

（記念講演） 「廃棄物問題と市民活動」　廃棄物学会会長　高月　紘氏	
（講演１） 名古屋市における生ごみ資源化モデル事業 名古屋市環境局　西田　秀明氏	（講演３） 市民とＮＰＯのつながり ＮＰＯ環境浄化を進める会　岐阜 藤川　幹男氏
（講演２） 「生ごみ」という汚名返上を市民の力で ㈱おぎそ　環境エンジニアリング部 餌取　英樹氏	（講演４） 生ごみリサイクルの本質を考える アサヒ環境システム㈱　石井　英明氏
（講演５） エコ資源－バイオマス系廃棄物 岐阜大学農学部　高見澤　一裕氏	

写真　高月会長の記念講演

写真　支部設立総会の様子

中日新聞（2003.2.25 朝刊）

「廃棄物学」普及を
名古屋で学会東海・北陸支部設立総会

研究発表や知識の交換などで廃棄物学の進歩普及を図る「廃棄物学会東海・北陸支部」（事務局・名古屋大学）の設立総会が、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開かれた。

総会では支部内規および組織案などが承認されたほか、常議員三十七人が選出された。その後の常議員会で、名大の伊藤秀章教授が支部長、中日本建設コンサルタントの辻喜礪常務が副支部長に選ばれた。

廃棄物学会（東京）は一九九〇年三月に、一般や産業廃棄物のリサイクルや適正処理を推進するため行政、企業、研究所、市民らで発足した。

東海・北陸地区は二〇〇〇年一月に連絡会ができたが、学会の情報を会員に伝え、年に一、二回イベントを開催するにとどまっていた。同支部は中部九県で会員約三百五十人を抱える。今後はこの地域の研究、教育、啓発、提言活動を組織的に実施する。

常議員会後は、廃棄物学会の高月紘会長が「廃棄物問題と市民活動」と題した記念講演をし、さらに豊橋技術科学大の木曽祥秋教授を総合司会に市民フォーラム「生ごみの減量化に挑む」が開かれた。

廃棄物学会東海・北陸支部への問い合わせは、事務局の名大難処理人工物研究センター＝電052（789）5854＝へ。

平成 15 年度／2003 年度

【社会情勢】

・産廃を排出する事業者の責任を強化するとともに過去に不法投棄された特定産業廃棄物の原状回復を促進するための法律として 2003 年から 2012 年度までの時限的に「産廃特措法」が制定された。

・新型肺炎の SARS（重症急性呼吸器症候群）が新感染症に指定され、7 月の終息宣言までに 32 ヶ国で患者 774 人が死亡。

・「宮城県北部地震」宮城県北部で震度 6 クラスの地震が 3 回発生、負傷者 700 人以上、およそ 5000 戸の住宅が被害。

・地上デジタル放送開始。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 25 日	第 1 回幹事会	名古屋大学
	第 2 回常議員会	
11 月 13 日	第 2 回幹事会	名古屋大学
12 月 16 日	第 3 回幹事会	名古屋大学
2 月 2 日	第 3 回常議員会	名古屋大学
	第 4 回幹事会	
2 月 24 日	見学会	新日本製鐵（株）名古屋製鐵所
3 月 13 日	総会	愛知産業貿易館西館
	第 4 回常議員会（参加者 17 名）	9 階第 3 会議室
	市民フォーラム	

【市民フォーラム：3/13 愛知県産業貿易館にて】

メインテーマ『いま、改めてリサイクルを問い直す』

容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、自転車リサイクル法の施行にともない、廃棄されたプラスチックや金属類のリサイクルが必要となった。各種のリサイクル方法が提案されている中、我々市民は環境への負荷を低減できるリサイクル方法について改めて選択を迫られている。今回のフォーラムでは、市民、行政、企業、研究者それぞれの立場からリサイクルの取り組みについての話題を提供し、討論を行う。

写真　パネル討論会

（講演１） 市民が担うリサイクルとリサイクル経済のこの頃 中部リサイクル運動市民の会　浅井　直樹氏	（講演４） 鉱山・製錬業を原点とする環境事業者の立場から 同和鉱業㈱　仲　雅之氏
（講演２） 名古屋市の資源化事業の概要－リサイクルコストを中心に 名古屋市環境局　平林　修氏	（講演５） 持続型社会をめざす物資循環 豊橋技術科学大学　藤江　幸一氏
（講演３） プラスチック資源のごみの中間処理－現状と課題 名古屋プラスチック・ハンドリング㈱ 栗林　信夫氏	
（パネル討論） コーディネーター：名古屋大学　藤澤　敏治氏	

【見学会】

新日鐵住金（株）名古屋製鐵所は、日常生活では見られない巨大な設備である。鉄が溶かされ、延ばされ、製品になる過程を間近で見学することができた。

写真　見学会の受付風景

写真　展示物の説明

平成 16 年度／2004 年度

【社会情勢】

・アテネ五輪で日本は金 16・銀 9・銅 12 のメダルを獲得、柔道・野村忠宏選手が五輪 3 大会連続で金メダルを獲得。伊勢市出身の野口みずきが金メダルを獲得。

・「新潟県中越地震」新潟県中越地方で震度 6 強の地震が 3 回発生、死者 39 人、被災者 10 万人以上。

・愛知県で愛・地球博覧会が開幕（2005 年 3 月 25 日～2005 年 9 月 25 日）

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 20 日	第 1 回幹事会（参加者 17 名）	名古屋大学
	第 5 回常議員会（参加者 17 名）	
6 月 13 日	第 2 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学
9 月 2 日	第 3 回幹事会（参加者 10 名）	名古屋大学
9 月 17 日	見学会（参加者 37 名）	小牧市リサイクルプラザ（エコハウス・小牧）
11 月 1 日～2 日	「廃棄物処理技術」基礎講習会（参加者 36 名）	花車ビル北館
11 月 29 日	第 4 回幹事会（参加者 7 名）	名古屋大学
2 月 8 日	第 5 回幹事会（参加者 20 名）	名古屋大学
	第 6 回常議員会（参加者 20 名）	
3 月 26 日	第 7 回常議員会（参加者 18 名）	名古屋都市センター大研修室 11 階
	総会（参加者 38 名）	
	市民フォーラム	

【市民フォーラム：3/26 名古屋都市センターにて】

メインテーマ『市民がつくる循環型都市の将来像』

写真　熱心な質疑応答

循環型社会の創生が国の目指すべき大きな社会目標とされているが、我々市民がこの社会をどのようにイメージして、そのための道のりはどうすれば拓かれるのかという問題を、名古屋をモデルとして「市民が創る循環型社会の創生研究」に取り組んできた関係者や市民の報告を聴くとともに討論し、目標すべき循環型都市の将来像を考える。

（講演１） 市民が創る循環型社会 研究者代表　柳下　正治氏	（講演３） 循環型社会の理念・理想と現実～容器包装リサイクルを例として 国立環境研究所　森口　祐一氏
（講演２） 循環型社会への挑戦 名古屋市環境局　古谷　伸比固氏	
（意見交換） 下記のステークホルダー会議参加者と市民会議参加者の代表による話題提供と評価をめぐる意見交換 ステークホルダー会議参加者：徳光　岳穂氏、磯野　孝雄氏 市民会議参加者：奥田　宗昭氏、村瀬　慎助氏	
（パネル討論） コーディネーター：神戸大学　石川　雅紀氏	

【見学会】

見学先：小牧市リサイクルプラザ（エコハウス・小牧）

内　容：小牧市リサイクルプラザは、飲料缶・ペットボトル・空き瓶の処理ライン、まだ使える粗大ごみなどを修理・再生する施設、資源ごみを再生する施設がある。また、資源ごみの再生作業も体験することができる。ごみの資源化に対する取組をご紹介いただく。

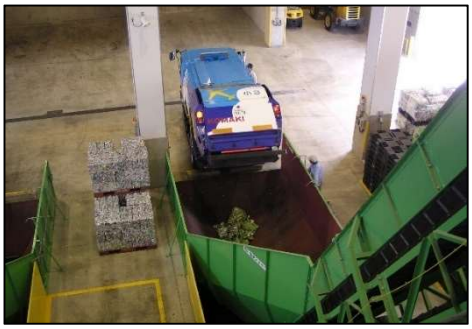


写真　廃棄物投入ホッパー

写真　リサイクル講座（紙すき）

【「廃棄物処理技術」基礎講習会】

主　旨：廃棄物処理に関する分野横断的な基礎知識と基礎技術の修得を目的とした講習会を開催。対象は企業、自治体、公的研究機関、大学等で廃棄物処理に関する実務、開発、研究に携わる中堅技術者・研究者、大学の若手教員・大学院生とした。講習会参加者には「講習修了書」を交付した。

写真　講習会風景

平成 17 年度／2005 年度

【社会情勢】

・「ライブドア事件」ライブドアの堀江貴文社長と取締役 3 人が証券取引法違反容疑で逮捕。また、粉飾決算で株価を上昇させていたことがわかり、4 月に東証上場廃止の処分へ。

・冬季トリノオリンピックで日本は金 1・銀 0・銅 0 のメダルを獲得。女子フィギュアスケートで荒川静香選手がアジア勢初の金メダル。

・姉歯建築設計事務所（千葉県）で設計されたマンションやホテルの構造計算書が偽装され、震度 5 クラスの地震で倒壊の危険がある建物が建てられていたことが発覚。その後、偽装を指示した”黒幕”や 70 件以上の偽装を見抜けなかった検査機関などをめぐって建築業界全体の問題に発展した。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 20 日	第 1 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
	第 8 回常議員会（参加者 17 名）	
7 月 8 日	第 2 回幹事会（参加者 10 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
7 月 1 9 日	見学会	太平洋セメント（株）藤原工場、三重ごみ固形燃料（RDF）発電所
9 月 7 日	第 3 回幹事会（参加者 6 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
10 月 26 日～27 日	「廃棄物処理技術」第 2 回基礎講習会（参加者 24 名）	名古屋都市センター
11 月 28 日	廃棄物問題特別講演会（参加者約 100 名）	福井商工会議所ビル
11 月 29 日	第 4 回幹事会（参加者 7 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
12 月 1 日	見学会	田原市リサイクルセンター炭生館、豊橋市プラスチックリサイクルセンター
2 月 7 日	第 5 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
	第 9 回常議員会（参加者 18 名）	
3 月 26 日	市民フォーラム（参加者 45 名）	名古屋都市センター 大研修室 11 階
	第 10 回常議員会（参加者 20 名）	
	総会（参加者 24 名）	

【市民フォーラム：3/25 名古屋都市センターにて】
メインテーマ『廃棄物のリサイクルと安全な最終処分』

市民の協力や焼却処理の促進などにより、一般廃棄物の埋立処分量は減量化しつつあるが、リサイクルが困難な産業廃棄物は埋立てに頼らざるをえない状況が続いている。さらに、最終処分場周辺の環境汚染が危惧され、処分場の管理・維持に関わる法規制が厳しくなるとともに新たな処分場の建設が困難になっている。一方、埋め戻し材等のリサイクル品の安全問題や不法投棄問題は大きな社会問題となっている。今回の市民フォーラムでは廃棄物のリサイクルと安全な最終処分のあり方に焦点を合わせて講演と討論を行う。

（講演１） 福井県の場合・処理業者の立場から 福井資源化工㈱　大家　清紀氏	（講演３） 産廃アウトローの構造 千葉県印旛地域整備センター　石渡　正佳氏
（講演２） 廃棄物処理の課題と取組 愛知県環境部　林　清比古氏	（講演４） 安全な最終処分場の維持管理の方向性 福岡大学　柳瀬　龍二氏
（パネル討論） コーディネーター：豊橋技術科学大学　藤江　幸一氏	

【見学会】
見学先：太平洋セメント（株）藤原工場、三重ごみ固形燃料（RDF）発電所
内　容：セメント工場は、リサイクルの優等生と言われ、様々な廃棄物をセメント原料やキルン燃料として利用されている。太平洋セメント（株）の製品や製造プロセスを通じた廃棄物リサイクルに対する姿勢、研究開発についてご紹介いただく。

三重 RDF 発電所は三重県内 6 施設で製造された RDF の受入れしている。一般廃棄物の処理には、従来からの焼却処理の他、RDF 発電や溶融処理といった様々な処理方法について理解を深めた。

写真　RDF 施設①

写真　RDF 施設②

【見学会】

見学先：田原市リサイクルセンター炭生館、豊橋市プラスチックリサイクルセンター

内　容：田原市リサイクルセンター炭生館は、愛知県田原市、渥美郡渥美町から搬入される一般廃棄物を炭化処理するリサイクルセンターで、最先端のごみ資源化施設である。また、豊橋市プラスチックリサイクルセンターは、豊橋市内の一般家庭から分別収集されたプラスチックごみを、再商品化することを目的としたプラスチック中間処理施設である。これらの施設を見学することで、廃棄物の資源化について理解を深めた。

【「廃棄物処理技術」第 2 回基礎講習会】

主　旨：前年度（平成 16 年度）基礎講習会と同じ

写真　講習会風景

写真　講習修了書授与

【廃棄物問題特別講演会】福井商工会議所ビル国際ホール

講　師：高月　紘氏（石川県立大学生物資源工学研究所教授、京都大学名誉教授）

演　題：「廃棄物問題の過去・現在・未来」

内　容：(1)廃棄物問題の過去から現在への経緯、(2)家庭ごみの中身から見えてくること、(3)産業廃棄物問題～豊島問題を中心にして、(4)これからの廃棄物対策とライフスタイルの変更、(5)廃棄物問題から持続可能な社会のあり方を考える

写真　高月　紘教授の講演

平成 18 年度／2006 年度

【社会情勢】

・廃掃法に「石綿含有廃棄物に係る処理基準」が追加される。

・秋篠宮紀子さまが男子をご出産。お名前は「悠仁（ひさひと）」さま。

・サッカーW 杯ドイツ大会で日本は一次リーグ敗退、優勝はイタリア。引退するフランス・ジダン選手が決勝戦で頭突きによって退場、日本の中田英寿選手が敗退後に引退表明。

・「能登半島沖地震」石川県の能登半島沖で震度 6 強の地震が発生。
死者 1 人、重軽傷者 17 人。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
7 月 4 日	第 1 回幹事会（参加者 7 名）	名古屋大学
	第 11 回常議員会（参加者 18 名）	グリーンサロン東山
7 月 28 日	第 2 回幹事会（参加者 10 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
11 月 29 日	第 3 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学共同教育研究施設 2 号館 7 階 705 号室
12 月 21 日	第 12 回常議員会（参加者 13 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
1 月 26 日	見学会（参加者 28 名）	名古屋市大江破砕工場、名古屋市第一処分場、愛知臨海環境整備センター（アセック）
2 月 8 日	第 4 回幹事会（参加者 8 名）	名古屋大学
	第 13 回常議員会（参加者 14 名）	グリーンサロン東山
3 月 24 日	市民フォーラム（参加者 31 名）	中京大学名古屋キャンパス
	第 14 回常議員会（参加者 14 名）	
	総会（参加者 22 名）	

【市民フォーラム：3/24 中京大学名古屋キャンパスにて】

メインテーマ『いま環境教育について考える』

「環境の心」は環境を大切にし、敬う心で互いに支え合い、連携しあうことにより培われる。「環境の心」とは「自分ひとりぐらい」や「なぜ自分だけ」ではなく、「みんなで」、「お互いさま」の心である。また、日本人が昔から受け継いできた言葉で、意味としては「そのものの値打ちが生かされず無駄になるのが悔しい」に「もったいない」がある。自然な物に対し「敬意」や「愛」などの意思をこめた言葉で、世界に同様な言葉が見つからないため、今日、「MOTTAINAI」が世界共通語として広められている。今回は「環境教育」について教育、行政、企業それぞれの立場から討論を行う。

（講演１） 曙学園（中・高等学校）における取り組み 曙中学高等学校　後藤　　学氏	（講演３） 名古屋市における取り組み 名古屋市環境局　増田　達雄氏
（講演２） 大学における取り組み 名古屋大学　安田　敬司氏	（講演４） 企業における取り組み 佐藤工業㈱　石橋　稔氏
（パネル討論） コーディネーター：(社)日本技術士会中部支部　辻　喜礦氏	

写真　パネルディスカッション

写真　（講演４）佐藤工業（株）石橋氏

【見学会】

見学先：名古屋市大江破砕工場、名古屋市第一処分場、愛知臨海環境整備センター（アセック）

内　容：大江破砕場は、名古屋市域外立地している大規模処分場である。第一処分場は、市内に建設した小規模処分場であり、処分場が抱える課題についてご紹介いただく。衣浦湾 3 号地に設置される廃棄物最終処分場アセックは、県内の公共事業および産業活動から排出される廃棄物の安定した処分場について理解を深める。

写真　最終処分場（アセック）

写真　参加者集合写真

平成 19 年度／2007 年度

【社会情勢】

・「新潟中越沖地震」新潟・長野で震度 6 強の地震が発生。死者 7 人、負傷者 800 人以上。

・「朝青龍サッカー問題」大相撲の横綱・朝青龍が夏巡業への休場届を出しながらモンゴルでサッカーに興じた問題で、日本相撲協会が朝青龍に 2 場所の出場停止処分を下す。

・「緊急地震速報」震度 5 弱以上の揺れが予測される場合にのみ、揺れの到達直前に予想震度を出すシステム。NHK が提供を開始した。

・「中国製ギョーザ食中毒問題」JT の子会社「ジェイティフーズ」が中国河北省の「天洋食品」から輸入・販売した中国製冷凍ギョーザを食べた千葉県の家族 5 人が食中毒を起こし入院。そのギョーザのパックから農薬「メタミドホス」が検出される。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 20 日	第 1 回幹事会（参加者 8 名）	名古屋大学
	第 15 回常議員会（参加者 13 名）	グリーンサロン東山
8 月 6 日	第 2 回幹事会（参加者 10 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
10 月 30 日	第 3 回幹事会（参加者 7 名）	名古屋大学
	第 16 回常議員会（参加者 10 名）	グリーンサロン東山
11 月 9 日	見学会（参加者 46 名）	名古屋市五条川工場、北名古屋衛生組合鴨田エコパーク
12 月 21 日	第 4 回幹事会（参加者 7 名）	名古屋大学エコトピア科学研究所会議室
1 月 31 日	第 17 回常議員会（参加者 11 名）	名古屋大学エコトピア科学研究所会議室
3 月 22 日	第 18 回常議員会（参加者 17 名）	中部大学名古屋キャンパス
	総会（参加者 22 名）	
	市民フォーラム	

【市民フォーラム：3/22 中京大学名古屋キャンパスにて】

メインテーマ『災害廃棄物について学ぶ＝実態・対策・そして備え＝』

地域温暖化がマスコミをにぎわせている昨今、水害や震災による被害は常に我々の身近に感じられる。阪神・淡路大震災で 6 千名以上の貴重な命が奪い去られて早 13 年が経ち、今日、水害や震災の経験や教訓に学び、我々が住む町の災害に対する備えについて考えておくことが重要となった。今回は水害や震災時に発生する大量の災害廃棄物について、それらの実態と処理対策、備えについて学ぶ。

（講演１） 名古屋市における災害廃棄物の処理について 名古屋市環境局　小松　隆雄氏	（講演３） 近年の水害、地震災害の特徴と災害廃棄物発生量について （財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構　人と防災未来センター　平山　修久氏
（講演２） 災害廃棄物の発生抑制と減量化マネジメント～水害廃棄物を中心に～ 名古屋大学エコトピア科学研究所　岡山　朋子氏	（講演４） 災害廃棄物処理の現状と課題 佐藤工業㈱　環境事業部　石橋　稔氏
（パネル討論） コーディネーター：松葉　基司氏	

【見学会】

見学先：名古屋市五条川工場、北名古屋衛生組合鴨田エコパーク

内　容：五条川工場は、名古屋市ではじめて灰溶融設備を導入した設備で、溶融メタル・溶融スラグの資源化のほか、溶融飛灰の山本還処理委託による資源化を実施している。これらの資源化の現状、課題についてご紹介いただく。

鴨田エコパークでは、最新の屎尿処理とともに生ごみ混合によるメタン発酵を行っている。メタン発酵による資源化事業について理解を深める。

写真　　鈴木支部長の挨拶

写真　溶融炉の模型（五条川工場）

写真　発酵槽（鴨田）

写真　施設担当者のご説明（鴨田）

平成 20 年度／2008 年度

【社会情勢】

・株価大暴落によって日経平均株価が 26 年ぶりに 7000 円を割り込む。

・南部陽一郎、益川敏英、小林誠が史上初となるノーベル物理学賞 3 人受賞、下村脩がノーベル化学賞受賞。

・バラク・オバマが黒人初のアメリカ合衆国第 44 代大統領となる。

・第 2 回 WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）が開催され、日本が二大会連続優勝。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 19 日	第 1 回幹事会（参加者 12 名）	名古屋大学
	第 19 回常議員会（参加者 17 名）	グリーンサロン東山
12 月 3 日	第 2 回幹事会（参加者 8 名）	名古屋大学
	第 20 回常議員会（参加者 12 名）	グリーンサロン東山
2 月 6 日	第 3 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学
	第 21 回常議員会（参加者 14 名）	グリーンサロン東山
3 月 14 日	第 22 回常議員会	名古屋大学
	総会（参加者 15 名）	グリーンサロン東山
	市民フォーラム	

【市民フォーラム：3/14 名古屋大学ベンチャー･ビジネス･ラボラトリーにて】

メインテーマ『資源を大切にして、エコ社会を目指す！』

限りある資源を大切に使い、エコ社会（持続可能な社会）を全員で創っていくことがこれからの課題である。今回の市民フォーラムは「資源を大切に」をキーワードとして、企業や市民などの取組みについて学び、我々が「家庭や職場でできること」を考える。

（講演１） 消費者の“ものを大切にする意識” 名古屋大学エコトピア科学研究所 山本　芳弘氏	（講演３） 三州瓦の再生にみる“ものを大切にするこころ” 三州陶器瓦製造㈱　神清　神谷　昭範氏
（講演２） 砥石の再生にみる“ものを大切にするこころ” ノリタケボンテッドアブレーシブ　リサイクル推進 PJ　山口　幸男氏	（講演４） “おかえり野菜”にみる“食と命を大切にするこころ” 「市民による生ごみリサイクルへのチャレンジ・おかえりやさいプロジェクト」 名古屋大学エコトピア科学研究所 岡山　朋子氏
（パネル討論） コーディネーター：東海・北陸支部　副支部長 玉野総合コンサルタント（株）戸谷　満氏	

平成 21 年度／2009 年度

【社会情勢】

・環境に配慮した自動車（エコカー）を購入した消費者に対して、自動車重量税や自動車取得税などが免除または減額される「エコカー減税」制度の導入。裁判員制度がスタート。

・冬季バンクーバ五輪で日本は金 0・銀 3・銅 2 のメダルを獲得
初のオリンピック代表となったフィギュアスケートの浅田真央選手が、韓国のキム・ヨナ選手に敗れるも銀メダルを獲得した。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 8 日	第 23 回常議員会	名古屋大学
9 月 17 日～19 日	研究発表会	名古屋大学
10 月 3 日	見学会（参加者 82 名）	日本環境安全事業（株）（JESCO）豊田営業所、トヨタ自動車（株）トヨタ会館
12 月 18 日	第 24 回常議員会	名古屋大学
	第 1 回幹事会	
3 月 13 日	総会（参加者 16 名）	「ノリタケの森」内「森村・大倉記念館」
	市民フォーラム（参加者 31 名）	

【廃棄物資源循環学会研究発表会：名古屋大学にて】

廃棄物学会が一般社団法人になってから初の研究発表会が名古屋大学で開催された。企画セッションでは、「災害廃棄物」や「省 CO_2 型社会」をテーマとした企画の他、東海・北陸支部が支部活動として進めてきた「環境教育」もテーマとして取り上げられた。

また、前日までの 9 月 14 日～16 日まで、「R'09 Twin World Congress（環境技術および資源マネジメント国際会議）」が名古屋大学とスイス・ダボスの 2 会場で同時開催された。

写真　会場入り口

写真　大会場でのパネルディスカッション

写真　技術発表

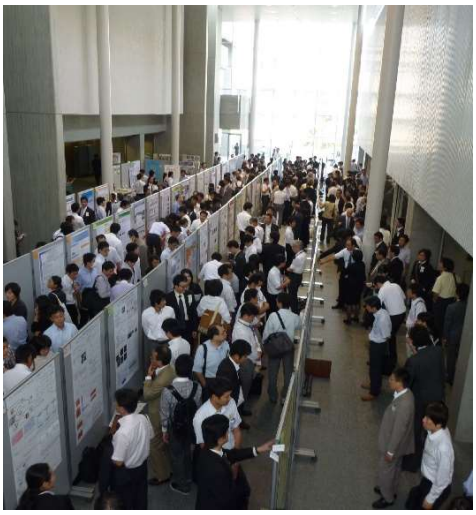
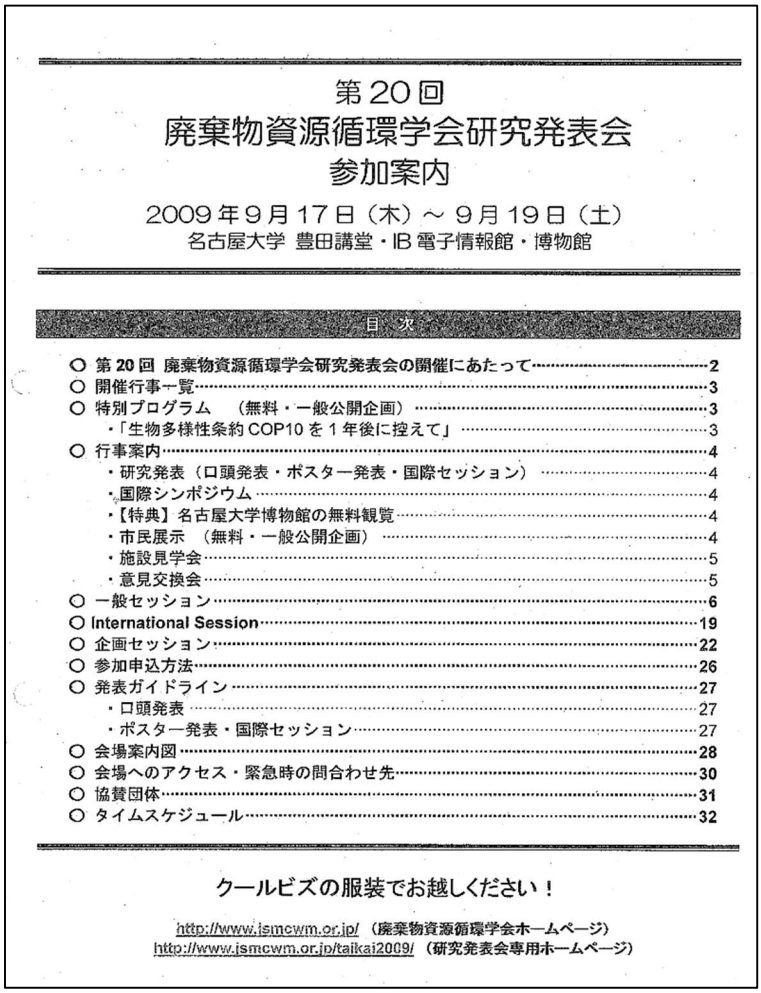


写真　ポスター展示



第 20 回
廃棄物資源循環学会研究発表会
参加案内

2009 年 9 月 17 日（木）～ 9 月 19 日（土）
名古屋大学 豊田講堂・IB 電子情報館・博物館

目　次

○ 第 20 回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって……2
○ 開催行事一覧……3
○ 特別プログラム　（無料・一般公開企画）……3
・「生物多様性条約 COP10 を 1 年後に控えて」……3
○ 行事案内……4
・研究発表（口頭発表・ポスター発表・国際セッション）……4
・国際シンポジウム……4
・【特典】名古屋大学博物館の無料観覧……4
・市民展示　（無料・一般公開企画）……4
・施設見学会……5
・意見交換会……5
○ 一般セッション……6
○ International Session……19
○ 企画セッション……22
○ 参加申込方法……26
○ 発表ガイドライン……27
・口頭発表……27
・ポスター発表・国際セッション……27
○ 会場案内図……28
○ 会場へのアクセス・緊急時の問合わせ先……30
○ 協賛団体……31
○ タイムスケジュール……32

クールビズの服装でお越しください！

http://www.jsmcwm.or.jp/（廃棄物資源循環学会ホームページ）
http://www.jsmcwm.or.jp/taikai2009/（研究発表会専用ホームページ）

参加案内

【市民フォーラム：3/13 ノリタケの森にて】
メインテーマ『都市環境と資源循環』
　日本だけではなく世界中で「環境問題」へ関心が高まる中、環境に関するキーワードは世の中に溢れかえっている。今、このグローバルな社会における膨大で複雑な「環境」と向き合い、皆がそれぞれの役割を見つめ直すことが必要である。
　「3 名の講師による異なる分野（視点）での講演」に参加することで、我々一人ひとりが廃棄物資源循環について、それぞれの立場で「何ができるのか？」「何をすべきなのか？」を考える機会とする。

（講演１） ノリタケの森とノリタケの歴史 ノリタケの森　文化部部長兼ノリタケミュージアム館長　安藤　忠治氏
（講演２） 廃棄物資源とみどりの計画 玉野総合コンサルタント㈱　吉田　勇次氏
（講演３） 土地利用と水環境を考える 名古屋大学環境学研究科　教授　清水　弘幸氏

【見学会】
見学先：日本環境安全事業（株）（JESCO）豊田営業所、トヨタ自動車（株）トヨタ会館
内　容：JESCO は、全国 5 ブロックに処理施設整備し、PCB 分解処理をしている。豊田営業おける脱塩素分解処理による PCB 分解処理について理解を深める。トヨタ自動車（株）トヨタ会館では、未来車の全容や最新鋭車などについてご紹介いただいた。

平成 22 年度／2010 年度

【社会情勢】

・チリ北部の鉱山で落盤事故が起き、坑道で作業をしていた 33 人が地下 700 メートルに閉じこめられたが、後に 33 人全員が無事救助。

・2010 年のノーベル化学賞に、北海道大学の鈴木章名誉教授と、アメリカ・パデュー大学の根岸英一特別教授が選ばれた。

・3 月 11 日に「東日本大震災」が発生。太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生した。この地震により、宮城県栗原市で震度 7 が観測されたほか、福島県や茨城県で震度 6 強、東京都や神奈川県で震度 5 強など、東北から関東にかけた広い範囲で強い揺れが観測された。東北地方の太平洋沿岸部では、観測史上最大級の大津波が押し寄せた。

・10 月に名古屋で開催された、生物多様性条約 COP10。179 の締約国と国際機関、NGO/NPO など約 1 万 3000 人が参加して「生物多様性」や「ABS」などに対する一般の認知と関心を高めたのと同時に、47 の決議を採択するなど大きな成果を上げて、無事に閉幕。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
7 月 28 日	第 25 回常議員会（参加者 8 名）	名古屋大学 東山グリーンサロン
10 月 15 日	第 2 回幹事会（参加者 9 名）	名古屋大学工学研究科 5 号館 249 号室
11 月 10 日	第 26 回常議員会（参加者 9 名）	名古屋大学レストラン花の木
12 月 9 日	見学会（参加者 37 名）	（財）愛知臨海環境整備センター（アセック）、 中部電力（株）碧南火力発電所
3 月 12 日	市民フォーラム	名古屋大学 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
	総会（参加者 15 名）	
	第 27 回常議員会（参加者 14 名）	

【市民フォーラム：3/12 名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにて】

メインテーマ『生物系廃棄物の処理と有効利用の歴史』

我々の生活に直結して発生する「し尿」などの生活系廃棄物の処理とその有効利用の歴史を学ぶ。我々が普段何気なく使用している水の循環について学び、水資源の重要さについて考える。

（講演１） 生活排水処理と社会システム 豊橋技術科学大学　木曽　祥秋氏	（講演３） 水の行き先を意識する ～トイレ・お風呂・水の処理　流してから始まる物語～ ㈱エステム　冨山　愛氏
（講演２） 廃棄物処理の課題と取組 名古屋市上下水道局　森島　嘉浩氏	
（パネル討論） コーディネーター：名古屋大学　鈴木　憲司氏	

【見学会】

見学先：（財）愛知臨海環境整備センター（アセック）、中部電力（株）碧南火力発電所

内　容：衣浦湾 3 号地に設置される廃棄物最終処分場アセックは、県内の公共事業および産業活動から排出される廃棄物の安定した処分についてご紹介いただいた。
石炭を燃料とする火力発電所は、地球環境問題に対応するバイオ燃料や石炭灰の有効利用などの取組について見学することで、理解を深める。

写真　アセック担当者の説明

写真　衣浦湾３号地の廃棄物最終処分場

写真　中電碧南火力発電所の説明

写真　発電所内の見学風景

平成 23 年度／2011 年度

【社会情勢】

・東日本大震災による福島第一原発事故について、事故の深刻度を表す「国際原子力事象評価尺度」を「レベル５」から、最も深刻な「レベル７」に引き上げると発表。

・8 月、再生可能エネルギー促進法が制定。国内でも本格的な再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入が開始した。

・アナログ放送が終了し、地上デジタル放送へ完全移行。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 21 日	講演会「中部からみた東日本大震災・緊急被災地報告会」	名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
7 月　5 日	第 29 回常議員会（参加者 15 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
	第 1 回幹事会	
8 月 30 日	第 2 回幹事会（参加者 11 名）	名古屋大学大学院　工学研究科マテリアル理工学専攻材料工学分野　材料会議室（230 号室）
10 月 20 日	見学会（参加者 19 名）	亀山総合環境センター、三重中央開発（株）
12 月 13 日	第 30 回常議員会（参加者 14 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
2 月　1 日	第 31 回常議員会（参加者 13 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
3 月 10 日	総会（参加者 15 名）	名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
	第 32 回常議員会（参加者 14 名）	
	市民フォーラム（参加者 22 名）	

【講演会「中部からみた東日本大震災・緊急被災地報告会」5/21 名古屋大学】

講演者として災害廃棄物対策・復興タスクチームとして参加した岡山朋子氏(名古屋大学)を中心として産業界や市民団体からの講演を中心に行われた。廃棄物、物流、ボランティア等の視点から被災地を調査してきた講師らにより、現地の「生」の状況を報告していただき、これからどのように被災地を支援が可能かを考えた。

写真　緊急被災地報告会の様子

【市民フォーラム：3/10 名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー】
メインテーマ『今どう考える“環境”～環境教育に向けて～』
　昨年は東日本大震災、原発事故、台風、円高、洪水、TPP 等と社会の構造さえ激変させる出来事が続いた。このような状況の中、廃棄物行政では「小型家電のリサイクル」の制度化に向けた検討の動きが加速している。今、この激動の中で「環境問題」をどのように捉えて「次世代を担う子供たちへの環境教育」に取り組んでいくのかを考える。

（講演１） 本校の現状と課題 暁中学校・高等学校　田中　正浩氏	（講演２） “環境”の歴史に学ぶ 名古屋大学　名誉教授　伊藤　秀章氏
（パネル討論） コーディネーター：東海・北陸支部　副支部長 玉野総合コンサルタント（株）　戸谷　満氏	

写真　パネルディスカッション(市民フォーラム)

【見学会】
見学先：亀山総合環境センター、三重中央開発（株）
内　容：亀山市総合環境センターは、ガス化溶融炉による一般廃棄物処理に加え、最終処分場に埋め立て処分された廃棄物を掘り起こし、処理を行っている。最終処分場の延命化が図れることで注目を浴びている施設であり、見学をさせていただいた。
三重中央開発（株）は、敷地内に最終処分場や廃棄物再資源化施設などの大規模な処理施設を有している。焼却に由来するエネルギーやマテリアルの有効活用についてご紹介いただいた。

平成 24 年度／2012 年度

【社会情勢】

・環境省が東日本大震災により流出した災害廃棄物の総量推計結果を公表。
・京都大学教授山中伸弥が iPS 細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞。
・レスリングの吉田沙保里が国民栄誉賞受賞。
・東京スカイツリーが開業。
・国内大手電機メーカーによる家庭用白熱電球の生産が終了し、19 世紀末にエジソンが実用化して以来の長い歴史に一つの節目が訪れた。地球温暖化防止対策の一環として、消費電力が大きく寿命も短い白熱電球の生産･販売を終了して、消費電力が小さく長寿命の電球型蛍光灯や LED 電球への切替を促す動きは全世界的に広がった。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 19 日	第 33 回常議員会（参加者 2 名）	名古屋大学内レストラン 花の木セミナー室
9 月 29 日	第 2 回幹事会（参加者 11 名）	名古屋大学 工学研究科 5 号館材料室
2 月 8 日	第 34 回常議員会（参加者 12 名）	名古屋大学内レストラン 花の木セミナー室
3 月 9 日	第 35 回常議員会（参加者 15 名）	名古屋大学 工学研究科 5 号館
	総会	
	市民フォーラム	

【市民フォーラム：3/9 名古屋大学工学研究科にて】

メインテーマ『生ゴミ処理の変化～廃棄物と資源の間で～』

生活にともなう生ごみの発生は不可避である。しかし、その処理は時代の変化とともに変貌を遂げてきた。生ごみは古くから堆肥として使用されてきたが、生活環境の変化から焼却処理に移行した。生ごみは水分の多さ故に焼却処理において技術的な課題が多数あり、処理方法の変化に伴って、それらの法律・法規も変化、地方自治体によりその処理形態や収集方法が異なり、一般廃棄物の分別細目も異なっている。今回は処理技術や法律の観点から、生ごみについて考える。

（講演１） ごみ処理事業における市民の存在は？ (社) 日本技術士会中部支部　辻　喜礦氏	（講演３） 分散型小規模バイオメタンエネルギーシステム 名古屋大学　エコトピア科学研究所 荒木　廣氏
（講演２） 下水処理場におけるメタン発酵・バイオガス発電事業「豊川バイオマスパーク構想」 豊橋技術科大学　環境・生命工学専攻 岡山　朋子氏	

写真　辻　喜礦氏の講演

写真　岡山 朋子氏の講演

平成 25 年度／2013 年度

【社会情勢】

・環境省は「低炭素社会創出ファイナンス・イニシアティブ」による、低炭素プロジェクトへの出資を決定。

・「小型家電リサイクル法」が制定される。

・2020 年のオリンピックの開催地が 1964 年以来 56 年ぶり 2 回目の「東京」に決定。「お・も・て・な・し」という言葉も話題になった。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 14 日	第 36 回常議員会（参加者 13 名）	大同特殊鋼（株） さつき館会議室
	総会（参加者 25 名）	大同特殊鋼（株） 50 周年記念ホール
	見学会	大同特殊鋼（株）知多工場
8 月 20 日	第 1 回幹事会	
11 月 26 日	見学会	小牧岩倉衛生組合新ごみ処理施設建築現場
1 月 20 日	第 37 回常議員会（参加者 15 名）	名古屋大学 5 号館会議室
3 月 17 日	第 38 回常議員会（参加者 15 名）	名古屋大学 5 号館会議室

【見学会（第 1 回）】

見学先：大同特殊鋼（株）知多工場

内　容：特殊鋼のリーディングカンパニーである大同特殊鋼（株）は、社会での役目を終えた鉄鋼製品をスクラップ原料として、新たな製品を再生するリサイクル企業である。また、製造工程で発生する副産物のリサイクル、リユースや、CO_2 削減などの環境負荷低減活動も積極的に推進している。今回、大同特殊鋼（株）のリサイクルや環境に対する取組みをご紹介いただいた。

【見学会（第 2 回）】

見学先：小牧岩倉衛生組合新ごみ処理施設建築現場

内　容：小牧岩倉衛生組合(小牧市、岩倉市)は、両市の一般廃棄物の焼却処理等をしている。既存施設設の老朽化に伴い、資源循環型社会を目指した新しいガス化溶融施設を平成 23 から 26 年度の 4 か年で建設が進めている。廃棄物の安定した処理と焼却灰の資源化(スラグ化)を目指し、処分量の削減と高効率発電による熱の有効利用等が期待されている。

平成 26 年度／2014 年度

【社会情勢】

・消費税率が『5%→8%』へと上がった。５%へ増税から 17 年振りとなる増税。
・8 月 11 日を『山の日』とし、2016 年から祝日となる。
・群馬県富岡市にある『富岡製糸場』が世界遺産に登録された。
　ユネスコ無形文化遺産に『和紙』が登録されることが決定。
・ブラジル W 杯が開催、日本はグループリーグ敗退。
・青色 LED を開発した、『赤崎氏、天野氏、中村氏』の 3 名がノーベル物理学賞を受賞。
・北陸新幹線の長野－金沢間 228 キロが延伸開業、東京－金沢間が 2 時間半で結ばれる。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
11 月 27 日	総会	豊川バイオマスパーク、（株）紅久商店本社工場
	見学会	

【見学会】

見学先：豊川バイオマスパーク、（株）紅久商店本社工場

内　容：豊川バイオマスパークは、豊川浄化センターの敷地内で、下水汚泥と周辺地域から集めたバイオマス（生ごみなど）をメタン発酵し、得られたバイオガスは発電に、残さはリサイクルして肥料にしている。さらに、ガス精製過程で発生する二酸化炭素（CO_2）は海藻養殖に、また、発電時に発生する CO_2 や熱はグリーンハウスで利用している。

（株）紅久商店本社工場は、東三河初の小型家電リサイクル事業の認定事業者となり、愛知、長野、静岡、山梨、福井、岐阜の 6 県を収集区域とし、各市町村が回収した小型家電を引き取るほか、同年 8 月からは各工場で一般市民からの無料引き取りも行っている。

写真　豊川浄化センターの説明

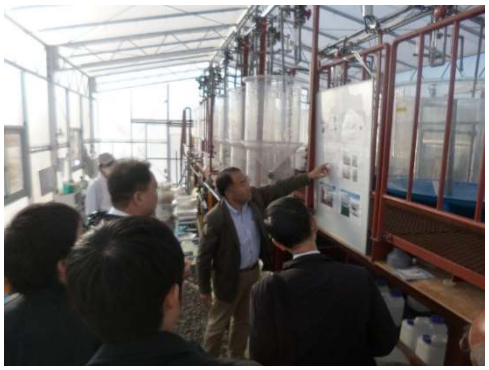


写真　バイオガス発電の説明

平成 27 年度／2015 年度

【社会情勢】

・ノーベル生理・医学賞に大村智氏、物理学賞に梶田隆章氏が選ばれた。

・COP21（国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議）フランス・パリで開催された。2020 年以降の温暖化対策の国際枠組み『パリ協定』が、京都議定書と同じく法的拘束力を持つ強い協定として合意された。

・米オバマ大統領とキューバのラウル・カストロ議長が会談。米キューバの首脳会談の実現は 1961 年の国交断絶以来 59 年ぶりとなる。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 22 日	第 39 回 常議員会（参加者 9 名）	名古屋大学 5 号館会議室
8 月 4 日	第 40 回 常議員会(参加者 12 名)	名古屋大学 5 号館会議室
9 月 28 日	総会（参加者 9 名）	名古屋会議室
	見学会（参加者 11 名）	三菱電機（株）名古屋製作所
2 月 16 日	第 41 回 常議員会(参加者 12 名)	名古屋大学 5 号館会議室
3 月 4 日	平成 27 年度　市民フォーラム	名古屋大学未来材料システム研究所
3 月 25 日	第 42 回 常議員会（参加者 6 名）	名古屋大学 5 号館会議室

【見学会：9/28 三菱電機（株）名古屋製作所にて】

国内最大級の電気機器メーカの先進的な技術、資源リサイクル、環境保全、新エネルギー利用等の取組みを見学することにより会員の知見を広めた。

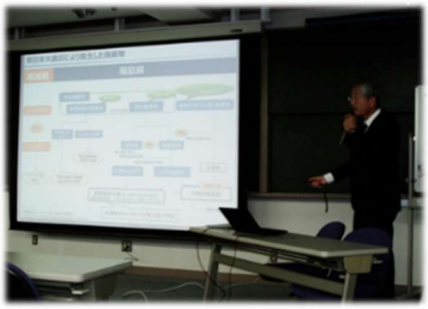
【市民フォーラム：3/4 名古屋大学にて】

メインテーマ『東日本大震災復興事業から学ぶ～環境教育活動へのヒント～』

東日本大震災の発生から約 5 年が過ぎ、被災地では東日本大震災の被害を乗り越えるべく、様々な主体による生活再建に向けた懸命の努力が続けられている。しかし、地域によっては依然として高い放射線量が計測されているほか、人口減少や風評被害等、社会的、経済的にも克服すべき課題を多く抱えている。

今回は被災地域の地域づくりの取り組みや被災地域の新たな行動等での現状報告の講演を聴き、我々の「今後の活動・環境教育活動の取り組み」へのヒントとした。

（講演１）
東日本大震災における廃棄物処理の概要
ＪＦＥエンジニアリング（株）　佐藤　稔也氏



（講演２）
地域住民とともに復興事業を推進
（株）奥村組　加納　雅彦氏

（講演３）
地域特性を考慮した復興事業のまちづくり
玉野総合コンサルタント（株）
小中　達雄氏

平成 28 年度／2016 年度

【社会情勢】

・熊本県にて、4 月 14 日と 4 月 16 日の 2 度にわたり、震度 7 を観測する地震が発生した。
・観光名所として知られる熊本城では、屋根瓦が落ち、石垣が崩れるなどの被害があった。
・人的被害も多く死者 137 人、重傷者 993 人と記録されている（平成 28 年 11 月 14 日時点）。また、約 289 万トンの災害廃棄物が発生した。

※人的被害数および災害廃棄物量は環境省 HP より

表　主な活動

月日	活動内容	場所
6 月 2 日～3 日	見学会：震災復興の現場視察	大槌町、山田町、宮古市
10 月 20 日	第 44 回 常議員会（参加者 10 名）	名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー
	総会（参加者 21 名）	
	特別講演会	

【見学会：6/2～3】

『東日本大震災復興事業から学ぶ～環境教育活動へのヒント～』

東日本大震災で津波による大規模な災害を被った岩手県の大槌町、山田町、宮古市の復興事業を視察する見学会を開催した。見学会はマイクロバスを貸し切り、盛岡から三陸海岸まで足を運び、震災後 5 年を経過した被災地の状況と復興現場を視察し、現地で復興事業に携わった行政・企業体の担当者から貴重な体験談と今後の課題について説明を受けた。今回の視察・見学会では、参加者が東日本大震災の歴史的意味を実感するとともに、それぞれの震災地における復興現場の特徴と広域的な空間を自らの肌で感じることにより、復興支援のみならず、多くの教示が得られた。

図　旅程

市野支部長を中心に「東北震災復興事業現地視察委員会」を設置し、視察で得られた貴重な体験を今後の支部活動に反映できるよう各地区での現地視察報告書を作成して特別講演(10/2 名古屋大学)で発表した。

表「東北震災復興事業現地視察委員会」のメンバー

氏　名	所属	委員会担当
市野　良一	名古屋大学	支部長
伊藤　秀章	名古屋大学名誉教授	現場視察委員長
戸谷　満	玉野総合コンサルタント（株）	現場視察副委員長/副支部長
松田　智	静岡大学	大槌町担当
脇田　真樹	名古屋大学	
森橋　諒	名古屋大学	
大家　清紀	福井資源化工（株）	宮古市担当
松浦　次雄	タソーアーク（株）	
酒井　紀章	佐藤工業（株）	
高見澤　一裕	岐阜大学名誉教授	山田町担当
駒見　宗裕	佐藤工業（株）名古屋支店	
高橋　正章	佐藤工業（株）	

【視察写真】

① 大槌町地区

写真 津波による旧大槌町役場の被害状況

写真 城山公園から見下ろす墓地と被災区域

② 山田・宮古地区

写真 巨大防潮堤付近の災害危険区域の工事現場

写真　住民とともに歩む復興支援活動

【特別講演：10/20 名古屋大学にて】

(1) 大槌町地区における現状と復興状況
静岡大学・教授　松田　智　氏

(2) 山田町地区における現状と復興状況
佐藤工業（株）高橋　正昭　氏

(3) 宮古市地区における現状と復興状況
福井資源化工（株）　大家　清紀　氏

(4) 震災廃棄物処理に関するデータの整理について
(一社)日本廃棄物コンサルタント協会・名誉会員　辻　喜礦　氏

平成 29 年度／2017 年度

【社会情勢】

・仮想通貨取引が流行。ビットコインは高騰を続けた。

・九州北部豪雨が発生。観測史上記録に残る雨量をもたらし、多くの地域で堤防の決壊や土砂災害を引き起こした。

・将棋 藤井四段がデビューから無敗のまま公式戦 29 連勝の新記録。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
5 月 30 日	総会（参加者 21 名） 市民フォーラム(参加者数 40 名)	名古屋大学 減災館 2 階会議室 名古屋大学 減災館
8 月 25 日	第 46 回 常議員会(参加者 12 名) 見学会（参加者 32 名）	中部リサイクル㈱会議室 中部リサイクル㈱ オオブユニティ㈱横根工場
3 月 15 日	第 47 回 常議員会(参加者 15 名)	名古屋大学 グリーンサロン東山

【市民フォーラム】

メインテーマ『減災連携活動に学ぶ　～南海トラフ大地震への備え～』

日本の国土は、昔から自然災害が多く、それに伴い実際数々の被害を受けてきた。現在、市民の多くは都市に生活し自然災害とは無縁であるかのようだが、無防備な状態の中で大きな災害が発生すると非常に甚大な被害が予想される。

今フォーラムでは南海トラフ大震災に備え、減災連携活動と災害廃棄物処理への取り組み方を学ぶ。

（講演 1） 過去に学び総力を結集して大震災を克服する 名古屋大学　教授　福和 伸夫 氏	（講演 2） 大規模災害への備え －資源循環・廃棄物処理の視点から 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター　客先研究員　高田 光康 氏
（講演 3） 中部地方環境事務所における災害廃棄物対策 環境省中部地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課　課長　水原 健介 氏	減災館案内・見学

写真　講演(市民フォーラム)

写真　減災館見学(市民フォーラム)

【見学会】

見学先：中部リサイクル（株)、オオブユニティ（株）リサイクルプラント横根工場

内　容：中部リサイクル（株）は、「Zero Emission Factory」の実現を企業理念に掲げ、廃棄物処理施設から発生した焼却灰を溶融処理により無害化して再製品化する事業展開を行っている。

オオブユニティ（株）リサイクルプラント横根工場は、中部地区最大級のバイオガス発電施設であり、生ごみや廃棄食品・廃飲料、有機泥状物等、多種多様なバイオマス資源を原料として受け入れ、微生物の働きで発酵分解させてバイオガスを回収し、ガス発電機の燃料として利用している。

2 つの工場内を見学し、原料がどのような設備により何に生成されるのかの説明を受けた。

写真　中部リサイクル（株）

写真　オオブユニティ（株）横根工場

平成 30 年度／2018 年度

【社会情勢】

・築地市場が 83 年の歴史に幕。豊洲市場が会場した。

・プラスチック製ストロー廃止の動きが広まる。

・西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生した。（平成 30 年 7 月豪雨、西日本豪雨）

表　主な活動

月日	活動内容	場所
8 月 4 日	夏休みスペシャル減災教室	名古屋大学 減災館
9 月 12～14 日	第 29 回 研究発表会 開催	名古屋大学 東山キャンパス
1 月 16 日	第 48 回 常議員会(参加者 15 名)	名古屋大学 グリーンサロン東山
3 月 19 日	総会（参加者 24 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
3 月末	支部の歩み 編集・発行	

m

【廃棄物資源循環学会研究発表会：名古屋大学にて】

第 29 回研究発表会が名古屋大学で開催された。308 件（口頭発表 182 件、ポスター発表 76 件、国際セッション 50 件）の発表、部会による 12 の企画セッション、2 つの企画フォーラム、2 つの企画展示が行われた。参加者数は 850 名であり、韓国からの参加者中心とした国際プログラムへの参加者数は 37 名であった。国際シンポジウムは「SDGs と資源循環・廃棄物管理―最新の動向」をテーマとして企画された。

研究発表会への発表件数は 3 年ぶりに 300 件を超え、第 28 回東京大会に引き続いて参加者数も多く、極めて盛況であった。

写真　会場入り口

写真　各セッションの様子

２日目午後の「特別プログラム」は、東海・北陸支部が主体となって行われた企画であった。会場は名古屋大学の豊田講堂で開催され、学会員と一般市民を合わせて約 490 名の方々に来場していただいた。最初は、当支部の副支部長である戸谷満氏より開会の挨拶として、本研究発表会のテーマである「持続可能な資源循環とものづくり～めざせ安心・安全な循環型未来都市を～」の説明と、東海・北陸支部の活動理念、取り組み内容が紹介された。その後名古屋大学減災連携研究センター長、福和伸夫教授の特別講演が行われた。特別講演に続いて、東海・北陸地域循環型ものづくりセッションとして愛知県の行政支援活動の紹介と東海・北陸地域の５社による循環型ものづくりについての発表が行われた。

（特別講演） 循環型社会における南海トラフ地震対策　～見たくないものを直視して～ 名古屋大学減災連携研究センター長・教授　福和　伸夫氏
（行政支援活動紹介） 「愛知環境賞」の紹介及び「あいくる～愛知県リサイクル資材評価制度～」についての紹介 愛知県環境部・建設部
（企業発表 1） 国産材を利用した外壁材による低炭素化活動とそのリサイクルシステムについて ニチハ（株）
（企業発表 2） 焼却灰を再資源化した溶融還元石の用途と施工事例 中部リサイクル（株）
（企業発表 3） 環境技術に関する取組みについて 丸栄コンクリート工業（株）
（企業発表 4） 発酵乾燥方式による下水汚泥固形燃料化技術～地産地消のバイオマス利活用～ 福井資源化工業（株）
（企業発表 5） 家庭由来の使用済みプラスチック製容器包装のリサイクルについて 福井環境事業（株）

写真　特別講演

写真　特別講演

平成 31 年度（令和元年度）／2019 年度

【社会情勢】

・リチウムイオン電池を開発した名城大教授の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞。

・台風第 19 号が、関東地方や甲信地方、東北地方などを襲い、甚大な風水害の被害をもたらした。

・中国武漢市で発生した新型肺炎（新型コロナウイルス）の世界中での感染拡大。

表　主な活動

月日	活動内容	場所
7 月 27 日	夏休みスペシャル減災教室	名古屋大学 減災館
9 月 18 日	第 30 回 研究発表会 報告	東北大学 川内キャンパス
12 月 4 日	見学会（参加者 23 名）	松阪市クリーンセンター 多気バイオパワー
2 月 4 日	第 49 回常議員会（参加者 17 名）	名古屋大学 グリーンサロン東山
3 月 16 日（新型コロナウィルス感染防止のため 4 月以降に延期）	総会 市民フォーラム	
3 月末	支部の歩み 改訂	

【見学会】

見学先：松阪市クリーンセンター、多気バイオパワー

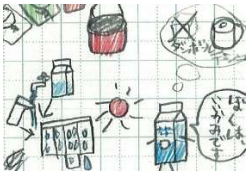
内　容：松阪市クリーンセンターは一般廃棄物を対象とした、焼却処理及び粗大ごみを破砕・選別処理する施設である。同じ三重県にある多気バイオパワーは木質バイオマス発電施設である。これらの施設ではカーボンニュートラルな燃料（ごみ中に含まれるバイオマス分や木質バイオマス）による発電や、ごみを選別し資源化することで循環型社会の形成に寄与している。また、他に特徴のある先進的な取り組みも展開しているため、それらの取り組み状況も含め見聞を広めるために見学会を開催した。

写真　松阪市クリーンセンター

写真　多気バイオパワー

環境教育の歩み

２００６年度～２０１９年度



2020 年 3 月

一般社団法人　廃棄物循環学会　東海・北陸支部

2.　環境教育

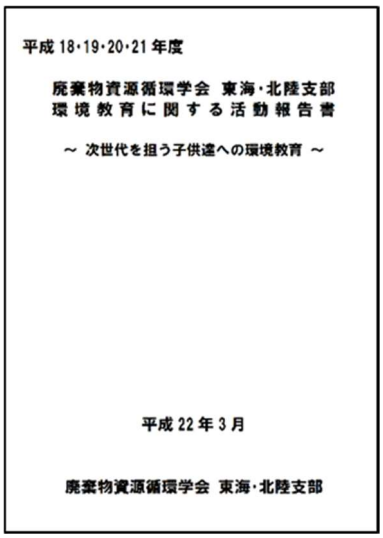
(1)　概要・活動一覧

支部では、廃棄物学に関する情報交換や学術研究活動を柱として、市民フォーラム、見学会、講演会を通じた教育活動を展開し、幅広く活動してきている。

このような状況下、地域におけるさらなる廃棄物分野の発展を図るため、地域活動を通じた人づくりに取り組むことが重要と考え、環境教育に関する活動を実施した。ここでは、平成 18 年度～令和元年度（平成 31 年度）にわたる活動概要を示す。

なお、環境教育活動の詳細については、別途「環境教育に関する活動報告書」にまとめた。

表紙および目次を以下に示す。



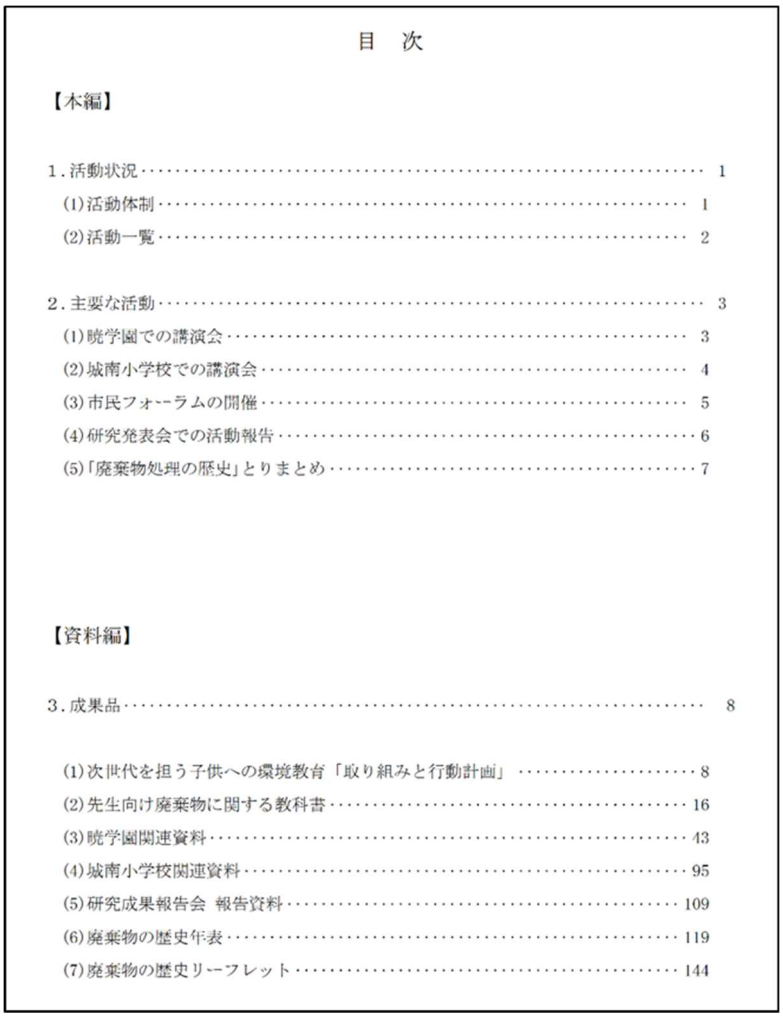
平成 18・19・20・21 年度

廃棄物資源循環学会 東海・北陸支部
環境教育に関する活動報告書

～ 次世代を担う子供達への環境教育 ～

平成 22 年 3 月

廃棄物資源循環学会 東海・北陸支部



目　次

【本編】

1．活動状況 …… 1
(1)活動体制 …… 1
(2)活動一覧 …… 2

2．主要な活動 …… 3
(1)暁学園での講演会 …… 3
(2)城南小学校での講演会 …… 4
(3)市民フォーラムの開催 …… 5
(4)研究発表会での活動報告 …… 6
(5)「廃棄物処理の歴史」とりまとめ …… 7

【資料編】

3．成果品 …… 8

(1)次世代を担う子供への環境教育「取り組みと行動計画」 …… 8
(2)先生向け廃棄物に関する教科書 …… 16
(3)暁学園関連資料 …… 43
(4)城南小学校関連資料 …… 95
(5)研究成果報告会 報告資料 …… 109
(6)廃棄物の歴史年表 …… 119
(7)廃棄物の歴史リーフレット …… 144

表　環境教育に関する活動概要

時期	活動概要
（平成 17 年度）	・ H18.3 伊藤支部長(当時)から、今後の当支部独自の新しい支部活動として「環境教育への取組み」が提案された。
【平成 18･19 年度】 H18.7 H18.9 H19.3 H19.3 H19.3	・「次世代を担う子供への環境教育～取組みと行動計画～」を策定し、基本方針や行動計画を定めた。 ・中高一貫の私立暁学園（三重県四日市市）と講演会の実施に向けて初回協議。　※以後、数回にわたり協議 ・暁学園にて、講演会を実施。 （中 1～高 2 の 5 学年･約 800 名を対象） ・城南小学校にて、講演会を実施。 （小 6 の約 80 名を対象） ・「いま、環境教育について考える」をメインテーマとして、市民フォーラムを開催。
【平成 20～22 年度】 H20.4 H21.9 H22.3	・廃棄物の歴史について取り纏めを開始。 ・第 20 回廃棄物資源循環学会研究発表会にて、企画セッション「いま、環境教育について考える」を企画し、支部活動について報告。 ・小中学生向けに廃棄物の歴史をまとめ、パンフレットとして編集。 ・活動報告書「平成 18～21 年度 廃棄物資源循環学会 東海・北陸支部 環境教育に関する活動報告書～次世代を担う子供達への環境教育～」にて、4 年間にわたる活動内容の取り纏め。
【平成 28･29 年度】 H28.10 H29.5	・特別講演会「東日本大震災被災地視察報告」（見学会「東日本大震災復興事業から学ぶ～環境教育活動へのヒント～」より） ・市民フォーラム「減災連携活動に学ぶ～南海トラフ大地震への備え～」を開催。
【平成 30･31 年度】 H30.8 R1.7（H31.7） R1.9（H31.9）	・夏休みスペシャル減災教室（名古屋大学減災館子供向けイベント）において、「大雨発生！そのごみどうする？〇×クイズ」にて参画。 ・夏休みスペシャル減災教室「災害で出たごみどうしよう！？〇×クイズ」への参画。 ・第 30 回廃棄物資源循環学会研究発表会（東北大学川内キャンパス）において「小中学生を対象とした災害廃棄物に関する減災啓発教材の開発～水害ごみ〇×クイズ～」を発表。

(2)　小中高生への環境教育

①　暁学園での講演会

三重県四日市市にある私立中高一貫校にて講演会を実施した。約 800 名の生徒たちに対し、３名の先生方が講演された。講演会の事前には、生徒へ環境に関するアンケートも実施した。

表　暁学園における講演会の概要

学校名	暁学園[中高一貫]　（私立：三重県四日市市）
日　程	平成 19 年 3 月
対　象	中学 1 年生～高校 2 年生(5 学年)の約 800 名
講演①	松田仁樹 先生（名古屋大学･幹事） ■テーマ：あなたとわたしとそのまわりのことを考える、ことのできるやさしい心を持った人間になろう。
講演②	鈴木憲司 先生（名古屋大学・支部長） ■テーマ：何を言うかではなく、何を実行で示すかである。
講演③	伊藤秀章 先生（名古屋大学・幹事） ■テーマ：わたしたちが共有しているこの世界を、イマジネーションしてみることが大切だ。
資料①	学校先生用教科書 ■「廃棄物の処理（ごみ処理の基本的な事項)」について、学校の先生が理解を深めることを目的とした。
資料②	環境に関するアンケート ■生徒が環境について、どの程度の知識があるか、どのような行動を取れるのかを確認することを目的とした。
その他	H19.3 の講演会に向け、H18.9 から数回にわたり協議（講演会内容の調整）を行った。生徒を対象とした「環境に関するアンケート」を踏まえ、「環境に関する知識」ではなく、「人としてこうあって欲しい」を講演テーマとした。 生徒達が３人の先生方の講演を真剣に見入る姿が印象的であった。

写真　学校との打合せ（奥左から、鈴木支部長、戸谷副支部長、手前は学校の先生）

写真 講演の状況①（約 800 名の生徒が集合！）

写真 講演の状況②（3 名の先生による熱の入った講演！）※写真は伊藤先生

② 城南小学校での講演会

三重県桑名市にある公立小学校にて、講演会を開催した。鈴木支部長から、約 80 名の生徒たちへ、環境に関するクイズを交え楽しく講演された。

表　城南小学校における講演会の概要

学校名	城南小学校（公立：三重県桑名市）
日　程	平成 19 年 3 月
対　象	小学 6 年生の約 80 名
講　演	鈴木憲司 先生（名古屋大学・支部長） ■テーマ：リサイクルについて クイズ形式で子供達と会話のキャッチボールをしながら、楽しく進行させた。
その他	テーマについては、小学校側からの要望があり、「リサイクルについて」とした。 講演はクイズ形式としたため、児童たちも積極的に参加し楽しい雰囲気であった。講演後のアンケートからも、児童達の興味を引く内容であったことが読み取れた。

写真 講演の状況①（クイズ形式で楽しく講演！）

写真 講演の状況②（児童も元気に参加！）

※講師は鈴木支部長

③　市民フォーラムの開催

支部の定例行事である市民フォーラムのテーマを環境教育として開催した。支部の講演会を実施した学校の先生をはじめ、大学、市役所、民間企業などあらゆる立場の方から講演していただいた。

表　市民フォーラムの概要

テーマ	今、環境教育を考える。
日　程	平成 19 年 3 月
講　演	(1) 中学･高校における取組み：後藤　学氏(暁中学校･高等学校) (2) 大学における取組み　　：安田　敬司(名古屋大学) (3) 自治体における取組み　　：増田　達雄氏(名古屋市) (4) 企業における取組み　　：石橋　稔氏(佐藤工業㈱)
その他	中学･高校、大学、自治体（名古屋市)、企業から、それぞれの活動について、ご講演いただいた後、パネルディスカッションを行い、意見交換を行った。

写真　講演の状況

講師からそれぞれの立場における、環境教育についてご講演いただきました。

④　研究発表会での活動報告

名古屋で開催した第 20 回廃棄物資源循環学会研究発表会の企画セッションで、環境教育をテーマとした。

表　第 20 回廃棄物資源循環学会研究発表会での活動報告の概要

企画セッションテーマ	今、環境教育を考える。
日　程	平成 21 年 9 月
講　演	(1) 企業における環境教育の取組み　岐阜信用金庫　花村 元司氏 (2) 企業における環境教育の取組み　中部電力㈱　五ヶ山　淳氏 (3) 自治体における環境教育の取組み　名古屋市　森本 章夫氏 (4) ＮＰＯにおける環境教育の取組み 中部環境パートナーシップオフィス　新海 洋子氏 (5) 環境教育に関する支部活動報告 玉野総合コンサルタント㈱・支部　沢登 智有氏 コーディネーター　東海北陸支部幹事・大同大学　堀内 将人氏
その他	支部の取組みとして実施してきた「環境教育」をメインテーマとした、企画セッションを設けた。 支部の活動報告を行うとともに、自治体、企業、ＮＰＯなど他の取組みについて、ご講演いただいた後、パネルディスカッションを行い、意見交換を行った。

写真　パネルディスカッションの状況

※ 一番左がコーディネーターを勤める堀内幹事（大同大学）

※ 一番右が支部報告を行った沢登氏（玉野総合コンサルタント（株））

(3)　「廃棄物処理の歴史」とりまとめ

①　目的

これまで支部で実施してきた環境教育をさらに推進するため、「支部活動の PR 広告」や、「教材の一つ」として、「ごみ処理の歴史」に関するパンフレットを作成することとした。パンフレットの対象は、小・中学生とし、講演会等の活動へ結びつける「きっかけ」となることを期待する。

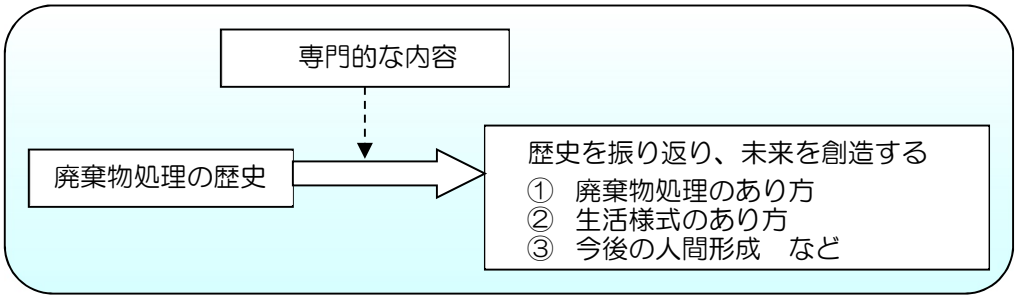
②　方針

循環型社会形成への取組みは、一定の程度に達したことによって目的を終えるものではなく、将来にわたって持続的・継続的に進めていく性格を持っている。

これらを踏まえ、当支部における取組みは、次世代を担う子供達へ「歴史を振り返り、循環型社会の重要性や具体的な取組み触れられる機会を提供する」ことにより、これらに対し自発的に考えられる「人づくり」の一端を担うことを目的とする。

③　基本方針

次世代を担う子供達が、自発的に歴史を学び、未来を創る「人」になるための機会として、「廃棄物処理の歴史」と「専門的な内容」に関する情報提供を行う。



④　廃棄物処理の歴史／パンフレット

人がごみを捨てるようになったことは、古代の遺跡があることからも判るように土器や石器の時代から始まっている。しかし、この頃はまだ物が少なく、基本的に自給自足の生活であり、モノは使いきれるようにリサイクルしていたと考えられている。一方、生活が多様化し豊かになった現代では、物が多く、使い捨て商品の増加、買い替えする商品の増加が目につくようになっている。

ここに示したような「廃棄物処理の歴史」を取り纏め、今後の環境教育を実施するためのパンフレットを作成した。作成に当たっては、パンフレット作成委員会を立ち上げた。

パンフレット作成委員会メンバー
伊藤 秀章氏、鈴木 憲司氏、市野 良一氏（名古屋大学）
戸谷 満氏、沢登 智有氏（玉野総合コンサルタント(株)）

未来への架け橋：廃棄物処理の歴史をまとめたパンフレット

(4)　小中学生を対象とした災害廃棄物に関する減災啓発教材の開発

①　目的

支部では、これまでに東日本大震災復興現場視察及び報告会、市民フォーラム「減災連携活動に学ぶ～南海トラフ大地震への備え～」を開催するなど、大規模災害発生時における廃棄物処理について、産官学民連携で考える場の構築に取り組んできた。これらの取り組みにより、過去の災害の経験から学び、次の災害に備えることが重要であり、産官学民連携を活かした減災教育、環境教育の必要性について認識してきた。このような社会的情勢の下、次世代を担う子どもたちを対象とした災害廃棄物に関する環境教育の実施を目的とした。

②　方針

2007 年には小中学生へのごみ分別とリサイクルに関する環境教育を実施している。これらの活動に基づき、(1)普段の生活から一人ひとりがごみの分別を実践し、ごみ出しや資源回収することが、廃棄物発生量を減らし、その結果として災害時の災害廃棄物量の削減につながること、(2)災害時の災害廃棄物処理の現状を知り、災害廃棄物仮置場での二次災害発生の防止や生活環境の保全が重要であることを、子どもたちがゲーム感覚で学ぶための減災啓発教材の開発を行う。

皆さんが食べるお菓子の袋やスーパー・コンビニでもらえるレジの袋は、資源ゴミとして捨てることができるでしょうか？

→●だと思う人、×だと思う人、それぞれ挙手させる。

→答えは×です。これらの袋はリサイクルされるので名古屋市ではプラスチック製容器包装として回収されます。専用の袋に入れて出しましょう。
プラスチックでもペットボトルは、住んでる地域ごとに決められた場所がありますので、そこに出すようにしましょう。

普段のごみ分別と排出方法に関するイラストボード（問題と解説）

水害時にはさまざまな種類を含む廃棄物が一度に多量に発生します。
これらの廃棄物は市町村の指定した廃棄物の仮置き場に持ち込まず、自分の家の近くに捨ててもよいでしょうか？

→●だと思う人、×だと思う人、それぞれ挙手させる。

→自分の家の近くに分別されていない廃棄物を捨てると、皆が真似をして膨大な廃棄物となります。
これが救助活動の妨げや悪臭、害虫の発生に繋がります。
廃棄物は市町村が指定する廃棄物の仮置き場に持ち込むようにしましょう。

水害廃棄物の排出や保管に関するイラストボード（問題と解説）

写真　作成した水害ごみ〇×クイズのイラストボードの一例

③　夏休みスペシャル減災教室への参画

名古屋大学減災館の子供向けイベント「夏休みスペシャル減災教室」へ参画し、1）2018 年 8 月、2）2019 年 7 月にそれぞれ「水害ごみ」「災害ごみ」をテーマにした〇×クイズコーナーを企画した。

子供たちが夏休みの自由課題や体験学習の話題の一つとして有効活用できるように、参加者に配布した資料の QR コードをスマートフォンで読み取ることで当日の問題と解答がインターネットで見られるようにした。

1）『大雨発生！そのごみどうする？ 〇×クイズ』（2018 年 8 月 4 日土曜日）

2018 年は地震や豪雨災害が多く発生し、災害廃棄物が大きな課題となった。身近な自然災害として、大雨が発生した場合に排出される大量の災害廃棄物に対して、子どもたちが実際にどのように行動したらよいかを具体的に考えてもらうため、簡単な〇×クイズによって学んでもらうことを目的としたイベントを立案した。イベント全体参加者数 124 名のうち４４名が来場した。参加者からは、分かりやすいクイズであった、面白かった、勉強になった、ごみの分別や出し方が理解できた、などの感想が寄せられ好評であった。水害廃棄物のみならず、平時の地域におけるごみの分別等について、親子で考えることができる機会となった。

写真　入口での概要説明の様子

写真　〇×クイズの様子

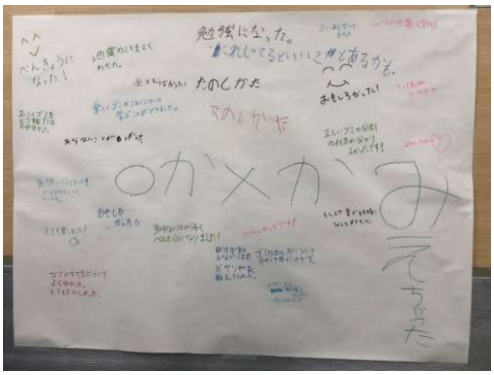


写真　参加者の感想や気付き

写真　夏休みスペシャル減災教室の様子

2)『災害で出たごみどうしよう！？〇×クイズ』（災害ごみの出し方といま起きている環境問題を考えよう）（2019 年 7 月 27 日土曜日）

自然災害の多い日本では災害時に多量発生する災害ごみに対して迅速に対応し、適切な行動をするためには、普段の生活から原点に戻って環境やごみ対策を実行して、潜在的な災害廃棄物を減らして行くことが大切である。さらに災害時の現状を知ることにより、災害廃棄物仮置き場での二次災害発生を防止できることなどを、簡単な〇×クイズによって学んでもらうイベントを立案した。当日は台風接近によりイベント自体の開催が危ぶまれたが、悪天候の中、全体参加者数６５名のうち２４名が来場した。

今後の減災啓発教材開発の参考とするため新たな取り組みとして、〇×クイズ後にアンケートを配布し、来場者の年齢層、クイズの難易度や問題数等に関して答えてもらった。また、環境問題についても学んでもらうために自宅学習用の環境問題チャレンジシートを配布した。

写真　〇×クイズの様子

写真　配布したチャレンジシート

表　「災害廃棄物〇×クイズ」運営メンバー

支　部　長	伊藤　秀章	名古屋大学名誉教授
副 支 部 長	戸谷　満	玉野総合コンサルタント(株)
運営委員長	新美　一正	(株)トーブ
	上成　嘉太郎	荏原環境プラント(株)
	浅野　利美	
	内田　祐介	
	藤岡　義史	玉野総合コンサルタント(株)
	大西　菜月	
	込宮　雄介	(株)トーブ
	金谷　智美	
	船橋　修	(株)フジタ名古屋支店
	小澤　剛	日立造船(株)中部支店
	脇山　卓哉	川崎重工(株)中部支店
	宇佐美　雅仁	中日本建設コンサルタント(株)
	平山　修久	名古屋大学
	市野　良一	

④　研究発表会での活動報告

2019 年 9 月に東北大学川内キャンパス（仙台市内）で開催した第 30 回廃棄物資源循環学会研究発表会の一般セッションで、災害廃棄物の管理・計画のテーマのもとに報告を行った。

一般セッション テーマ	災害廃棄物の管理・計画
日　程	2019 年 9 月　東北大学川内キャンパス
発表テーマ	小中学生を対象とした災害廃棄物に関する減災啓発教材の開発 ～水害ごみ〇×クイズ～　　㈱トーブ　込宮 雄介氏
発表者	㈱トーブ　込宮 雄介氏
その他	支部の取組みとして実施してきた「環境教育」の中で 2018 年、2019 年と続けて参画している「夏休みスペシャル減災教室」についての活動報告を行った。 発表の中では、次世代を担う子どもたちを対象とした災害廃棄物に関する減災啓発教材の開発とその実践について報告した。

今後も、東海・北陸支部における環境教育の活動のひとつとして、防災・減災という視点から、減災啓発教材の開発に取り組む方針である。

写真　発表の状況

編集後記

2018 年 9 月に第 29 回廃棄物資源循環学会研究発表会(名古屋大会)を迎えるにあたり、東海・北陸支部の活動の歴史と記録を残し、支部のアイデンティティ等を確認するため「支部の歩み 2001 年度～2016 年度」を発行することになりました。

支部活動「歩み」制作委員会のメンバー9 名により 2017 年 4 月 27 日から過去の資料整理に始まり「歩み」作成まで限られた時間の中で、5 回開催してまいりました。

メンバー全員がより良い「歩み」を作成し、今後の支部活動が情報交換・学術研究活動と社会貢献活動の幅が更に広がって行くことを願い、開催日は終日作業を行ってまいりました。

膨大な量の書類整理の中、今まで支部運営に携わってこられた方に感謝しつつ完成にいたったことに制作委員会一同嬉しく思っています。

「歩み」は常にご覧いただけるように、現在の支部活動と同様に支部 HP に掲載をいたします。時に触れご覧いただき、今後とも積極的な活動のご参加とご支援をお願い申し上げます。

最後に、制作委員会メンバー、ご協力いただいた名古屋大学の市野先生・神本先生に心よりお礼申し上げます。また、会員の皆様のますますのご健康とご活躍をお祈りし編集後記といたします。

東海・北陸支部　副支部長 / 「歩み」制作副委員長
戸谷　満

【支部活動「歩み」委員会】

委員長	伊藤　秀章	東海・北陸支部　支部長
副委員長	戸谷　満	東海・北陸支部　副支部長 玉野総合コンサルタント（株）
委員	内田　祐介	荏原環境プラント（株）
	浅野　利美	
	沢登　智有	玉野総合コンサルタント（株）
	新美　一正	（株）トーブ
	込宮　雄介	
	舩橋　修	東海・北陸支部　事務局 （株）フジタ 名古屋支店
	奥田　美穂	

【廃棄物資源循環学会　東海・北陸支部　HP：　http://jsmcwm.or.jp/tohkai-branch/　】